



報道関係者 各位

令和7年5月30日

【照会先】 栃木労働局 労働基準部 健康安全課

課 長 幸 田 和 則

安全専門官 増 渕 豊

電 話 028-634-9117

労働災害発生件数は第三次産業で過去最多

～令和6年 労働災害発生件数（確定値）～

栃木労働局（局長 ^{かわぐち ひでと} 川口 秀人）は、栃木県内における令和6年の労働災害による死傷者数（すべて新型コロナウイルス感染症のり患者を除いた人数。）を取りまとめました。

死亡者は24人と前年19人から5人の大幅な増加となり、20人を超えるのは、10年（平成26年）ぶりです。また、休業4日以上死傷者数は2,234人となり、前年2,252人から18人（0.8%）減となったものの、高止まりとなっています。

栃木労働局では、令和6年の労働災害発生状況の分析結果を踏まえ、事業場、関係団体等に的を絞った積極的な労働災害防止活動を強力に推進します。

1 栃木県内の令和6年の労働災害発生状況の概要（別添1参照）

（1）死亡者数：24人（前年：19人）

○業種別：運輸交通業で5人、次いで製造業、建設業、清掃・と畜業でそれぞれ4人ずつ発生した。

○事故の型別：「墜落・転落」が最多の9人で、次いで、「はさまれ・巻き込まれ」「交通事故」がそれぞれ3人、「激突され」「飛来・落下」がそれぞれ2人となった。

（2）死傷者数：2,234人（前年：2,252人）

○業種別：「第三次産業」が1,081人（前年：1,066人）で最も多く過去最多、次いで「製造業」が591人（前年：596人）となった。

○事故の型別：「転倒」が589人（前年：568人）と最多の26.4%を占め、次いで「墜落・転落」が365人（前年：347人）、「動作の反動・無理な動作」が320人（前年：336人）と続き、「転倒」と「動作の反動・無理な動作」を合わせた「行動災害」で40.7%を占めた。

○年齢別：「50歳代」が最多の27.0%（603人）を占めた。50歳以上では転倒災害が多く、転倒災害全体の78.0%（460人）を占めており、特に50歳以上の女性が転倒災害の約半数（282人、48.8%）を占めた。

○規模別：労働災害発生事業場の労働者数別では、30人未満の事業場が1,022人（前

年：1035人)で、全体の約半数（45.7%）を占めた。

2 取組の重点事項の概要

（１）死亡災害を減少させるため、

- ① 令和６年に死亡災害が多発した「墜落災害」について、『墜落・転落による死亡災害が多発！対策の徹底が急務です』（別添２）により業種横断的に対策の徹底を呼び掛ける。
- ② 重篤な災害に結びつきやすい業種や作業を捉えて、業界での自主的な取組を推進する。

（２）死傷災害を減少させるため、

- ① 高年齢労働者が安心・安全に働ける職場環境の形成のため取組を推進する。
- ② 「Ａない声かけ運動！※」により、行動災害を防止するための自主的な取組を推進する。（別添３）
※１「Ａない声かけ運動！」は栃木労働局が独自に進める「みんなで声かけを行い、不安全行動を抑制する」労働災害防止運動です。
- ③ 行動災害を防止するため、ソフト面対策（怪我をしにくい身体づくりで、体力・筋力の維持、向上を目指すもの。）を強化する。

3 栃木県内の令和７年４月末の労働災害発生状況

令和７年の労働災害発生状況は、４月末日での速報値で休業４日以上之死傷災害が５５７人と、前年同期比１４人（２．５％）減となっているものの、死亡災害については５人と前年４人から１人増加している。

3 添付資料

別添１ 栃木の労働災害

別添２ 墜落・転落による死亡災害が多発！対策の徹底が急務です

別添３ Ａない声掛け運動！

令和
6年

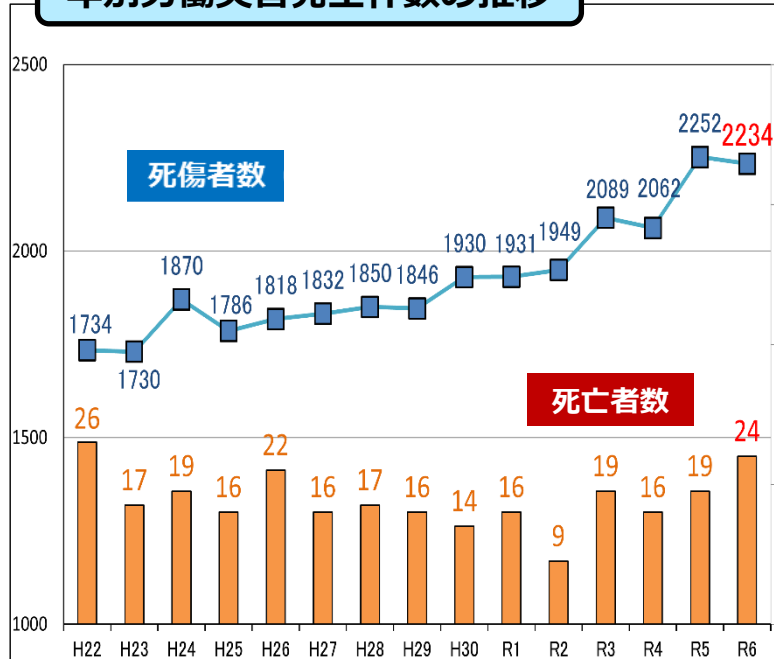
栃木の労働災害

栃木県内の令和6年の休業4日以上死傷者数は2,234人となっており、依然として高止まりとなっています。そのうち、死亡者は24人と前年より5人増加しました。死亡者数が20人を超えるのは10年ぶりの事態です。

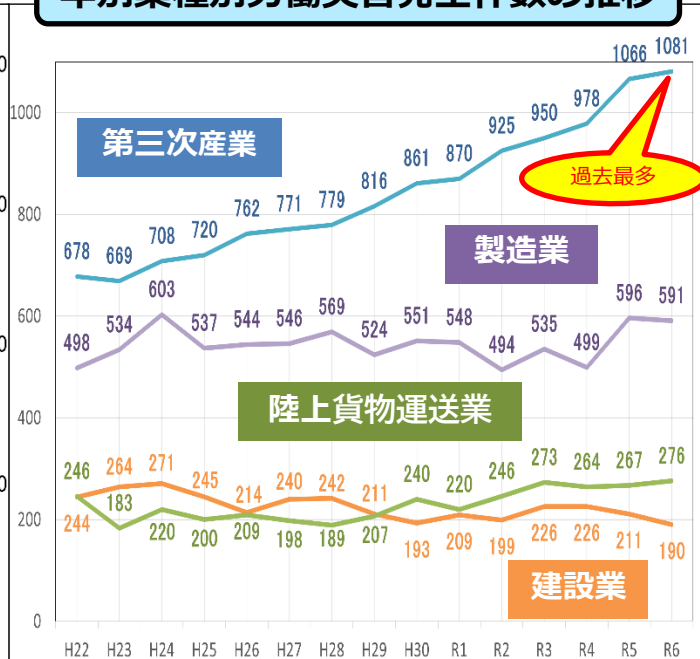
※ 統計・記事等は、すべて休業4日以上業務災害で、新型コロナ患者を除いたものです。

別添1

年別労働災害発生件数の推移



年別業種別労働災害発生件数の推移



業種別・監督署別労働災害発生状況

	栃木労働局			宇都宮署			足利署			栃木署			鹿沼署			大田原署			日光署			真岡署		
	R5	R6	増減	R5	R6	増減	R5	R6	増減	R5	R6	増減	R5	R6	増減	R5	R6	増減	R5	R6	増減	R5	R6	増減
全産業計	19	24	5	6	3	-3				7	9	2		3	3	2	3	1	2	3	1	2	3	1
	2,252	2,234	-18	601	616	15	148	159	11	701	640	-61	164	170	6	299	337	38	129	119	-10	210	193	-17
製造業計	5	4	-1	1		-1				3	2	-1		1	1							1	1	±0
	596	591	-5	117	123	6	45	65	20	216	170	-46	58	65	7	65	83	18	28	28	±0	67	57	-10
土石採取業・鉱業																								
	12	8	-4	1		-1				10	8	-2							1		-1			
建設業計	2	4	2								3	3							2	1	-1			
	211	190	-21	66	64	-2	9	4	-5	58	54	-4	13	12	-1	28	30	2	15	12	-3	22	14	-8
鉄道・道路旅客運送業	1		-1	1		-1																		
	21	16	-5	10	5	-5	1	1	±0	4	6	2	3		-3		2	2	2		-2	1	2	1
道路貨物運送業	6	5	-1	1	1	±0				3	1	-2		1	1	1	2	1				1		-1
陸上貨物取扱業	267	276	9	57	74	17	17	23	6	90	84	-6	29	23	-6	33	30	-3	6	6	±0	35	36	1
林業		2	2											1	1					1	1			
	24	19	-5	7	4	-3	2	1	-1	3	2	-1	3	4	1	2	3	1	3	5	2	4		-4
農・畜・水産業		1	1																				1	1
	55	53	-2	7	8	1	2	4	2	8	7	-1	3	2	-1	24	20	-4	4	1	-3	7	11	4
第三次産業計	5	8	3	3	2	-1				1	3	2				1	1	±0		1	1		1	1
	1,066	1,081	15	336	338	2	72	61	-11	312	309	-3	55	64	9	147	169	22	70	67	-3	74	73	-1

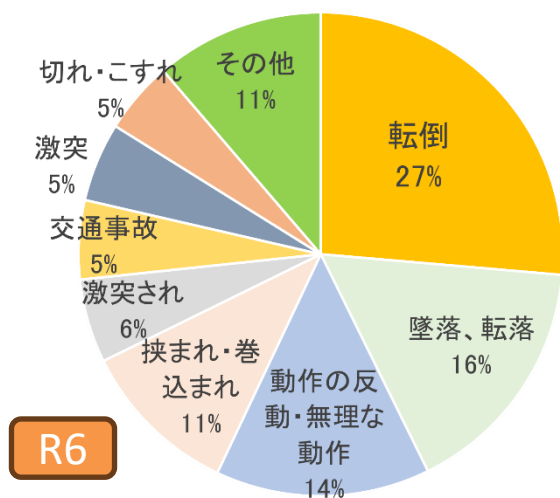


No.	業種	発生状況
1	製造業	高さ約3mの混合器の投入口を開け、原料を投入していたところ、投入口から転落し、スクリーンに巻き込まれたもの。
2	製造業	プラスチック破砕機の上部のぞき窓のLEDランプが切れたため、ランプの点検作業を行っていたところ、感電をしたもの。
3	建設業	民家の納屋のスレート屋根上で、スレート屋根の補強屋根葺きをしていたところ、スレート屋根を踏み抜いて墜落したもの。スレートの踏み抜き防止措置を行っていなかった。
4	運送業	高層ビル向け鉄骨梁材（長さ約12m・高さ約1m・重さ約4.0t）をトレーラートラックの荷台に橋形クレーンを使用し積み込み、荷台上で被災者が吊り具を外し荷台への固定作業の準備をしていたところ、被災者に向かって梁材が倒れてきて下敷きとなったもの。
5	運送業	砕石ストック場にて、ダンプ横で脚立に乗り、荷台に向けて放水していたところ、バランスを崩して脚立から転落し、頭部を強打したもの。

事業主が重大な過失（※）により死亡災害などの業務災害を生じさせ、労災保険給付が行われた場合、事業主からその給付に要した費用の一部を徴収することとなります（労働者災害補償保険法 第31条第1項第3号）。安全衛生関係法令の遵守並びに安全管理活動の推進をお願いします。

※法令に規定された危害防止のための直接的かつ具体的な措置に明白に違反した場合など

事故の型別発生状況

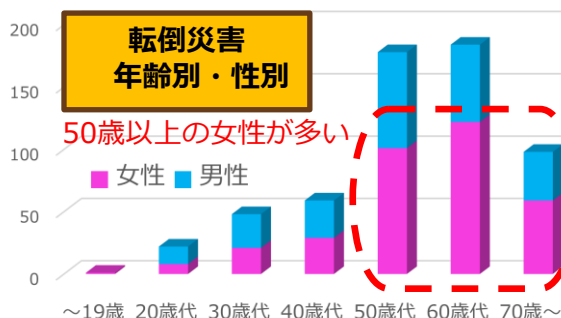


○「**転倒**」は筋力等が低下する50歳以上の高年齢労働者(特に女性。)に多く、段差があって躓きやすい、濡れていて滑りやすい等の原因が明らかな場合も多いものの、何もないところで躓いて転倒する、バランスを崩して転倒するなどの災害も多く発生しています。また、転倒時の負傷の重症化(骨折等)は骨密度の低い女性労働者に多くなっています。

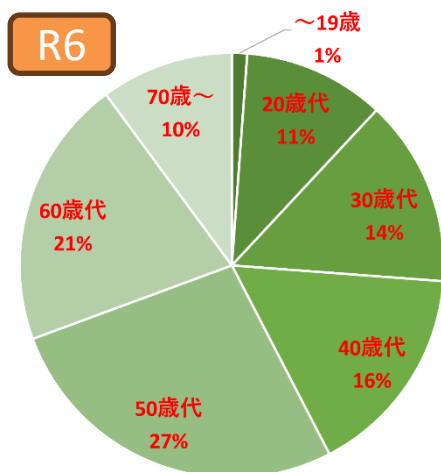
○「**墜落・転落**」は、重篤な災害に繋がりがやすく、昨年の死亡事故の要因として最も多い原因です。一方で、比較的低い場所からの墜落も多く、梯子や脚立の使用時や階段昇降時に、転倒災害と同じ要因のバランスを崩して墜落又は転落する災害が、あらゆる業種で増加しています。

○「**動作の反動・無理な動作**」は、重量物を持ち上げる作業や人の介助作業における腰痛災害が多く発生しました。また、無理な姿勢により膝や足首を捻るといった関節の障害も多く発生しました。

○「**はさまれ・巻き込まれ**」は、機械による災害が最も多く発生し、特に非定常作業での災害が多く発生しました。経験年数でみると経験が浅い未熟練労働者の災害が多く発生しております。



年齢別発生状況

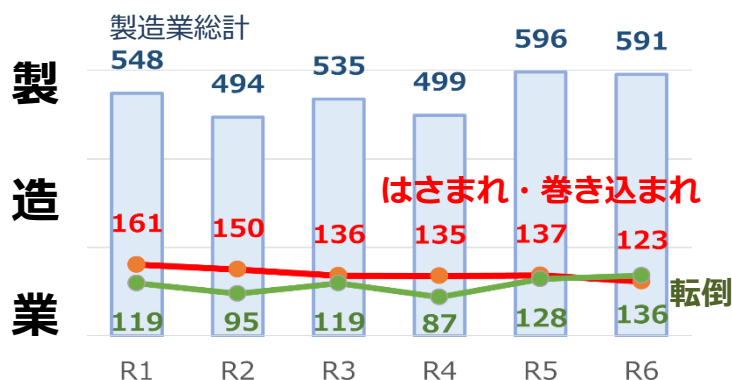


年齢が高くなるにつれ、全死傷者数に占める割合が高くなっています。特に「**60歳以上**」の被災労働者が占める割合が高く、31%と約**3人に1人**の割合となっています。また「**50歳以上**」では、58%と**過半数**を占めています。

このうち、「**60歳以上**」の事故の型別では、「**転倒**」災害が最も多く41%を占めており、次いで「**墜落・転落**」19%になります。

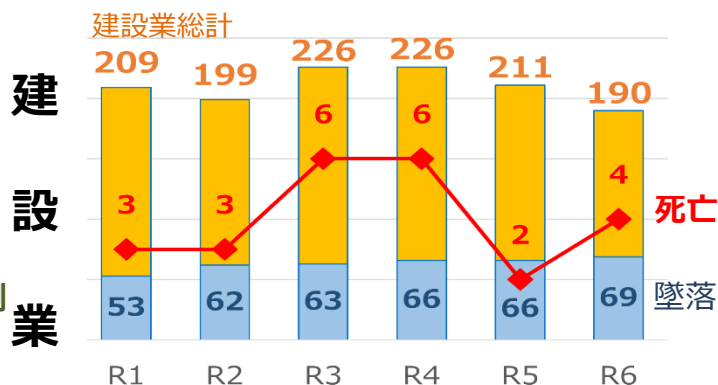
被災した際の休業日数は、年齢が高くなるにつれて多くなり、休業1か月以上を占める割合は「**60歳以上**」で59%、「**50歳以上**」では、64%となっています。

労働災害が増加又は減少傾向がみられない業種の特徴



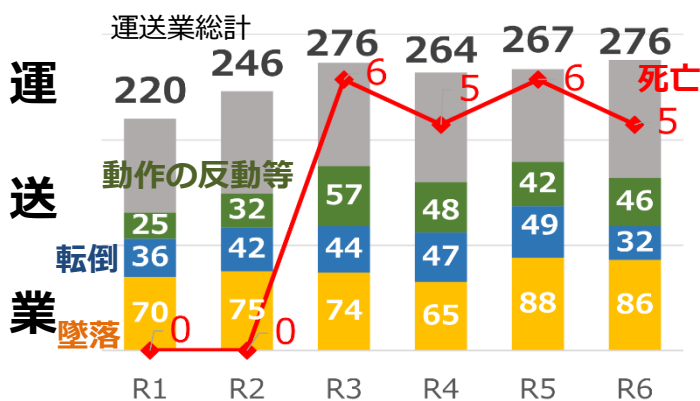
【災害の特徴】

- ・**業種別**では、「食料品製造業」が最も多く24%を占め、次いで「金属製品製造業」で18%を占めている。
- ・**事故の型別**では、「転倒」が初めて「挟まれ巻き込まれ」を上回り、最も多くなった。「転倒」は食料品製造業に多く、「はさまれ・巻き込まれ」は、金属製品製造業などで多発している。



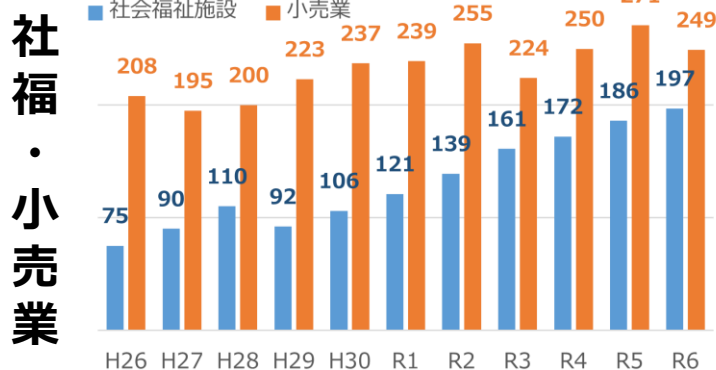
【災害の特徴】

- ・**死亡災害**が他業種と比較して多く、特に「建設3大災害」で、重篤な災害が多発している。
- ・**業種別**では、「建築工事業」が最も多く53%と半数を占め、次いで建築設備工事などの「その他の建築」で28%を占めている。
- ・**事故の型別**では、墜落・転落災害が最多で、足場や建屋、脚立・はしご等の設備からの墜落も多い。



【災害の特徴】

- ・**死亡災害**が令和3年以降、多発しており、墜落、荷崩れ、交通事故などにより発生している。
- ・**事故の型別**では、墜落が最も多く31%を占め、次いで動作の反動・無理な動作、転倒となっており、荷の取り扱い中における災害が多発している。
- ・**年齢別**では50歳代が最も多く、次いで60歳代、40歳代となっており、年齢層が高い。



【災害の特徴】

- ・社会福祉施設及び小売業の災害は年々増加している。
- ・**社会福祉施設**は、事故の型別で、転倒が最も多く25%、動作の反動・無理な動作で24%と、移動や介助作業中における災害が多い。特に女性の災害が84%を占める。
- ・**小売業**は、転倒が最も多く38%となっており、次いで動作の反動・無理な動作で16%となっており、行動災害が非常に多い。

栃木労働局が進める労働災害防止対策

死亡災害・後遺障害災害を防ぐ！

製造業

STOP！はさまれ巻き込まれ災害（機械災害対策）



建設業



STOP！建設三大災害（墜落災害、重機災害、倒壊・崩壊災害）

運送業

重大な労働災害（荷役五大災害）を防ぐためには



陸災防事業：興味がある事象者は、所轄監督署へご相談ください。

安全管理士等の個別コンサルティング（無料）

条件あり

全産業

梯子や脚立からの墜落・転落防止



中災防事業（製造業、第3次産業、鉱業及び農業）

中小規模事業場安全衛生サポート事業（無料）

条件あり

休業災害（主に行動災害）を防ぐ！

えー
Aない声掛け運動！

行動災害の原因となるA(あ)ぶない行動【A(あ)わてる、A(あ)せる、A(あ)などる】を防ぐため、みんなで声かけをする運動です。



New!!



えー
Aない声掛けシート



ポスターによる危険の見える化で注意喚起。

エイジフレンドリーガイドライン

高齢労働者特有の災害が年々増加しています。
高齢労働者の災害防止対策を紹介します。



助成金制度があります

準備中

転倒災害防止対策



転倒災害は年々増加しており、現在最も多い災害の型です。ハード面、ソフト面両面からの対策が必要です。その対策を紹介します。

ないっす
ころばNiceとちぎ

転倒災害は、特に高齢の女性労働者に多く発生しております。
転倒しにくい身体づくり体操を動画でわかりやすく紹介します。



New!!



ないっす
ころばNiceシート



ポスターによる危険の見える化で注意喚起。

New!!

ないっす
痛めNiceとちぎ

腰痛災害は、特に休み明けの午前中に多く発生しており、急に身体を動かし痛めるケースが多くあります。腰痛対策運動を紹介します。



腰痛を防ぐ



小売業と介護職場（社会福祉施設や病院）で腰痛が多く発生しております。
抱えあげない介助（ノーリフトケア）等の事例を紹介します。

労働者への教育

様々な業種に対応した漫画や動画、作業マニュアル等、日本語だけでなく、外国人労働者向けに14か国語での教材を用意しています。



マニュアル

漫画



ひと、くらし、あいのために

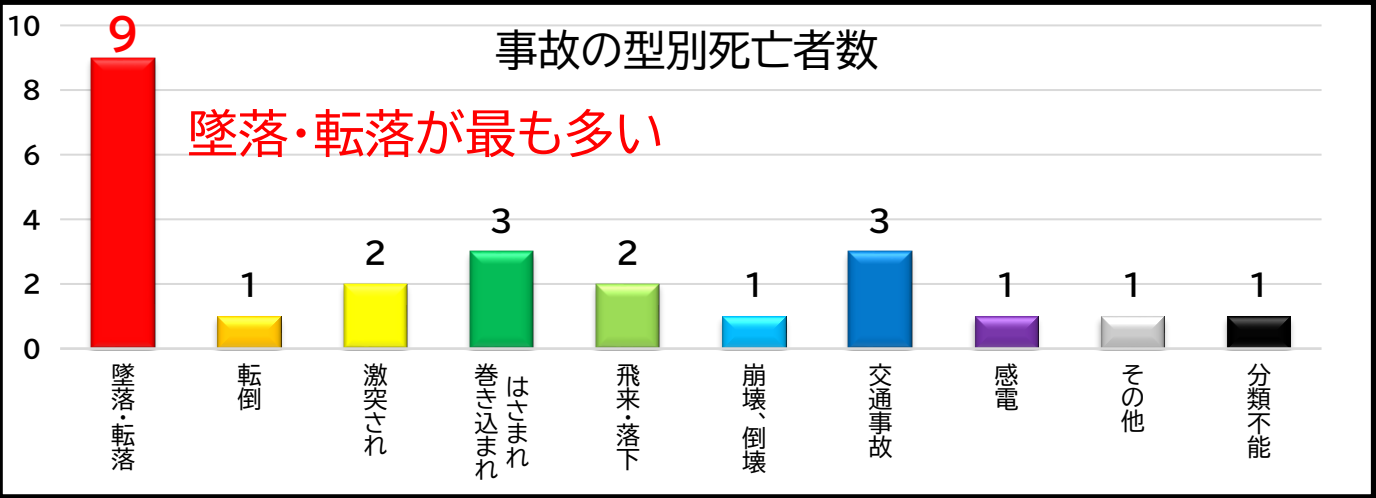
厚生労働省・栃木労働局・各労働基準監督署

墜落・転落による死亡災害が多発！

対策の徹底が急務です

別添2

栃木県内の令和6年に発生した労働災害による死亡者数は24人でした。
特に、墜落・転落による死亡災害が多発しています。



～墜落・転落による死亡災害事例～



発生月	業種	年代	概要
2月	建築工事業	60	踏み抜き防止措置を講じぬままスレート屋根の補強屋根葺きをしていたところ、当該スレート屋根を踏み抜いて墜落し、死亡したもの。

発生月	業種	年代	概要
3月	産業廃棄物処理業	50	糞尿等を微生物分解するための浄化槽において、マンホールを開けて水位を確認しようとしたところ、槽内に墜落し、死亡したもの。



発生月	業種	年代	概要
5月	クリーニング業	30	吹き抜けとなっている2階部に設置された作業床を用いて復旧対応中、作業床から落下し、床面に頭部を強打して死亡したもの。

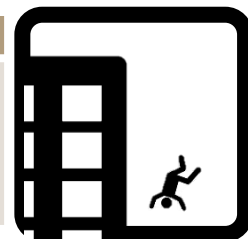
発生月	業種	年代	概要
7月	道路貨物運送業	70	ダンプ横で脚立に乗り、荷台に向けて放水していたところ、バランスを崩して脚立から転落し、頭部を強打して死亡したもの





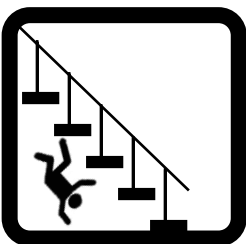
発生月	業種	年代	概要
9月	その他の製造業	60	肥料の原料となるピートモスをミキサーに投入する作業を行っていたところ、開口部から転落し、スクリューに巻き込まれ死亡したもの

発生月	業種	年代	概要
10月	建築工事業	20	雑居ビル屋上に設置された階段室の屋根上に防水シート施工を行っていたところ、端部から地面に墜落して死亡したもの



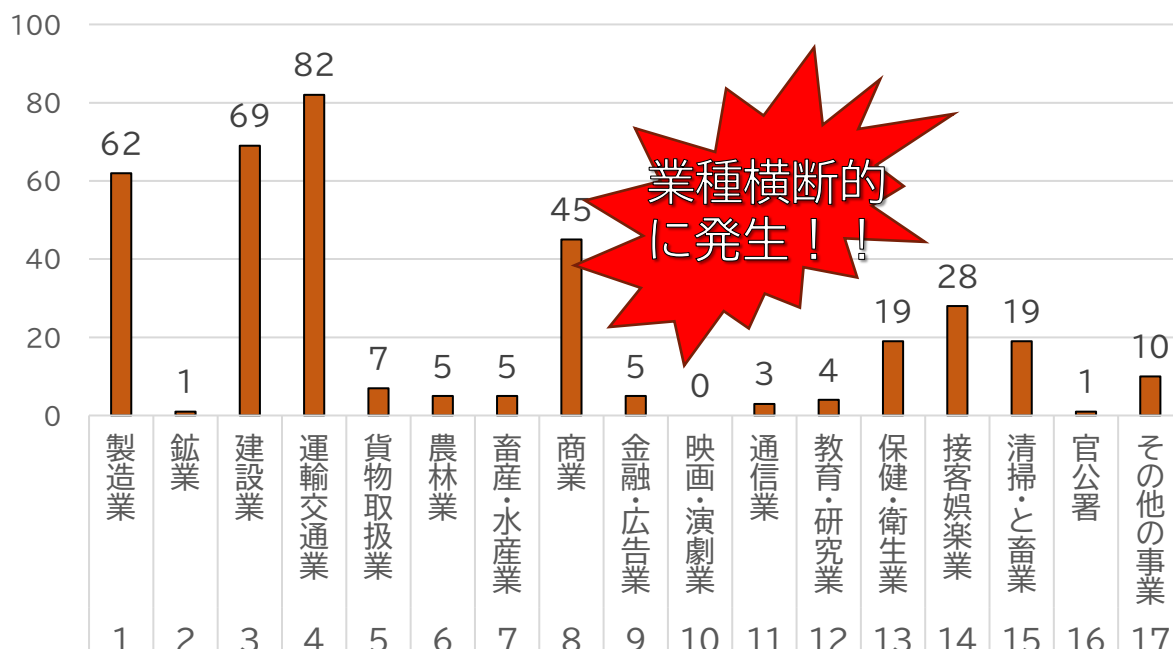
発生月	業種	年代	概要
11月	清掃・と畜業	70	排水処理施設の清掃作業中、調整槽上部に設けられた開口部から槽内部に墜落して死亡したもの

発生月	業種	年代	概要
11月	農業	80	木の剪定作業を行うため、電柱に移動梯子を立てかけ、高さ2.5mの位置まで登ったところで、バランスを崩して転落し、死亡したもの



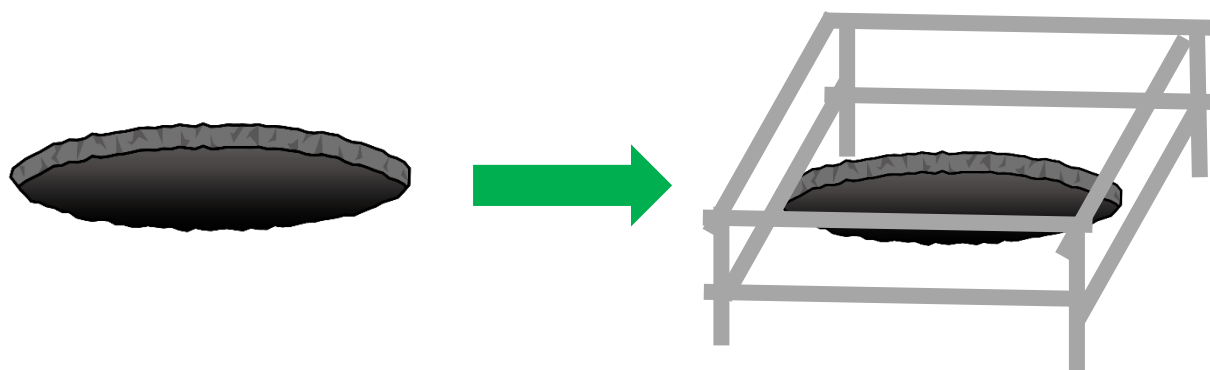
発生月	業種	年代	概要
12月	建築工事業	70	屋外の階段を、作業員2名で設備を持って上っていたところ、バランスを崩して、階段の手すりからすり抜け墜落し、死亡したもの

～令和6年 死傷者数でみた墜落・転落の発生状況～

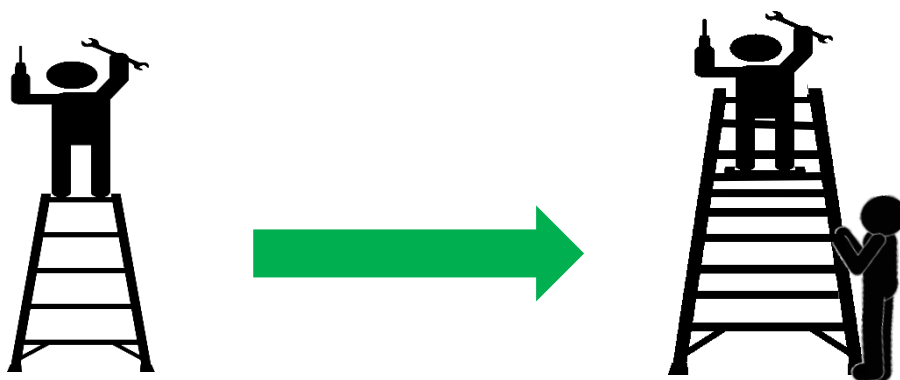


墜落・転落にはこんな対策が必要です！！

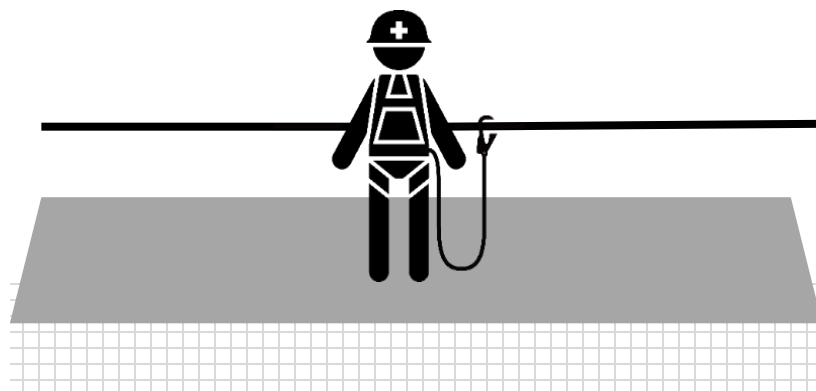
作業床、手すり、囲いを設ける！！



脚立の天板は使用しない！！一人作業はしない！！



作業床、手すり、囲いが設けられなければ
墜落制止用器具の使用と歩み板・防網の設置！！



労働災害を発生させた場合

事業主が重大な過失(※)により業務災害を生じさせ、労災保険給付が行われた場合、事業主からその保険給付に要した費用の一部を徴収することとなります(労働者災害補償保険法 第31条第1項第3号)。

安全衛生法令の遵守並びに安全管理活動の推進をお願いします。

※法令に規定された危害防止のための直接的かつ具体的な措置に明白に違反したことにより業務災害を発生させた場合など

以下の取組をお願いします

経営トップによる安全衛生活動の総点検

安全パトロール、4S活動、危険予知活動、危険の見える化、ヒヤリ・ハット対策、リスクアセスメントなどを行う

作業安全マニュアルの整備・見直し

機械の点検や不具合の解消等の非定常作業に係る安全作業マニュアルがヒューマンエラーに有効なものか見直し、なければ新たに整備する

交通事故防止対策の徹底

降雪や降雨による路面状況や、渋滞などの交通状況を考慮して、余裕をもった出発の心掛け、適正な車間距離の確保などを行う



栃 木 労 働 局

えー A ない声かけ運動！

別添3



(ダウンロードはこちら)

“あわてず！” “あせらず！” “あなどらず！”
声をかけ合っていきましょう！

厚生労働省

栃木労働局

増加する転倒や腰痛などの「行動災害」を含め、労働災害の起因となる**危ない行動を発生させない**ために、頭文字が「A（あ）」で始まる**“あわてず” “あせらず” “あなどらず”**をキャッチフレーズに、**職場内で声をかけ合って**いきましょう！

○安全を栃木から ～ 「安全第一」発祥の栃木県

1900年代初頭のアメリカで、USスチールのゲーリー社長は、悲惨な労働災害により苦しむ労働者たちの姿に非常に心を痛み、1906年に業界一般の方針「生産第一、品質第二、安全第三」から「安全第一、品質第二、生産第三」に改めました。その結果、労働災害が減少するだけでなく、生産性も、品質も向上したため「Safety - First」は全米に広がりました。

日本では、古河鉱業足尾鉱業所（栃木県日光市（旧足尾町））の**小田川全之所長**が、アメリカから、この考えを持ち帰り、大正元（1912）年に「安全専一」を掲げ、「安全心得読本」を配布したのがその始まりで、やがて全国に広がっていききました。日本で最初の「安全第一」運動です。

また、作業現場での声かけでは、「ご安全に！」という声かけが広く知られております。昔ドイツの炭鉱夫たちの間で使われていた「ご無事で！（グリュックアウフ）」という挨拶が由来と言われており、日本では昭和28年に兵庫県の鉄鋼工場で「ご安全に！」が使われ、その後鉄鋼業界を中心に広まったとされています。

時がたち、時代が変わっても、仲間を思いやる気持ちは変わりません。皆さんも積極的に職場のみんなに事故に遭わせないための「声かけ」をお願いします。



おだ が わ ま さ ゆ き



○安全を栃木から ～ S A F Eアワードで全国1位！

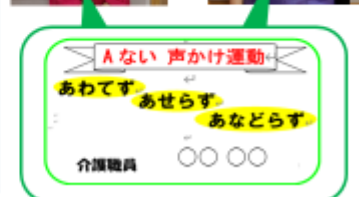
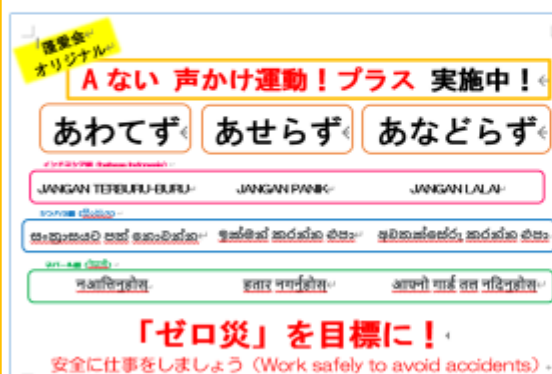
栃木県内に本社を置く社会福祉法人**蓬愛会**は、外国人介護職員も含めた安全衛生対策として「Aない声かけ運動！」の名札を活用し「労災ゼロ」を目指しています。

その取組が、労働災害防止において優良と認められS A F Eコンソーシアムの「S A F Eアワード」においてゴールド賞（全国1位）を受賞しました。

この取組は厚生労働省ホームページでも公開され、好事例として全国で活用されています。

■安全衛生対策の「見える化」③Aない声かけ運動■

●外国人労働者も【労災ゼロ】を目指し、法人全体で取り組もう！



(ほうあいかい)
社会福祉法人 蓬愛会

● **慌てて**作業を行ったことによるはさまれ災害！

〔発生時の状況〕

被災者は、配膳車を引っ張ってエレベーターに入れようとしていたところ、エレベーターの扉が閉まる前に、慌てて配膳車を移動させたため、エレベーター脇の廊下の壁と配膳車の間に手首を挟み、骨折した。

〔原因〕

配膳車をエレベーターに入れる際、エレベーターの長時間開放ボタンを使用せず、慌てて、配膳車を移動させたこと。強い力で配膳車を引っ張ったため、配膳車に勢いがつき、制御できなかったこと。



● **焦り**による行動で全身やけどを負って死亡！

〔発生時の状況〕

被災者は、トラックの荷台に積んであった燃料タンクのセンサーを交換しようとしてタンクから外したところ、タンク内の燃料が噴出して全身に被ってしまった。付近には暖房用ストーブがあったことから、焦った被災者はストーブを消そうと近づいたところ、服に引火し、全身に火傷を負って死亡した。

〔原因〕

ストーブの停止を他の労働者に任せる等せず、燃料を全身に被った被災者自身が行ったこと。



● 逸走したトラックを**慌てて**止めようとして挟まれ死亡！

〔発生時の状況〕

被災者は、トラックの積荷を降ろすため、緩やかに下った傾斜地に後ろ向きでトラックを停車させて降車した。被災者がトラック後部扉を開けようとして、トラック後部に回ろうとしたところ、傾斜でトラックが後退（逸走）してきたため、慌ててトラックを手で止めようとしたが、駐車場との間にはさまれて、全身圧迫により死亡した。

〔原因〕

サイドブレーキの引きが甘く、輪留めもしなかったこと。

